

平成 30 年 10 月 25 日

各 位

上場会社名	株式会社ドリコム	
代表者	代表取締役社長	内藤 裕紀
(コード番号)	3793)	
問合せ先責任者	取締役	後藤 英紀
(TEL)	03 - 6682 - 5700)	

## 特別利益の計上、営業外費用（持分法による投資損失） および業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 31 年 3 月期第 2 四半期において、特別利益および営業外費用（持分法による投資損失）を計上する見込みとなりました。平成 30 年 7 月 31 日に公表いたしました平成 31 年 3 月期第 2 四半期の連結業績予想の修正とあわせて、下記の通りお知らせいたします。

### 記

#### 1. 特別利益の計上及びその内容

当社では、従業員が株主の皆様と目線を共にし継続的な企業価値向上に取り組むことを目的とした株式報酬の一環として、新株予約権（ストックオプション）付与制度を実施してまいりましたが、平成 30 年 5 月より新たに特定譲渡制限付株式報酬制度を導入し、移行を進めております。

この度、第 14 回および第 15 回新株予約権者からその権利を放棄したい旨の申し出があり、これにより平成 31 年 3 月期第 2 四半期において、新株予約権戻入れによる利益を計上する見込みとなりました。なお当社は今後も継続的に特定譲渡制限付株式報酬制度による新株式の発行を想定しており、平成 31 年 3 月期第 2 四半期で計上する特別利益は約 130 百万円となる見込みです。

#### 2. 営業外費用（持分法による投資損失）の計上及びその内容

当社の持分法適用関連会社である株式会社 BXD では、同社が開発・運営を手掛けるプラットフォームおよび同プラットフォームを通じて提供されるオンラインゲームの拡大に注力しておりますが、現在も開発段階にあり費用先行が続いていることから、平成 31 年 3 月期第 2 四半期において、持分法による投資損失約 140 百万円（第 2 四半期累計期間では、約 226 百万円）を営業外費用として計上する見込みとなりました。なお、当該営業外費用につきましては、平成 30 年 7 月 31 日公表の業績予想に織り込んでおります。

#### 3. 業績予想の修正について

(1) 平成 31 年 3 月期第 2 四半期連結業績予想数値の修正（平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	5,900	△550	△750	△750	△26.52
今回修正予想 (B)	5,560	△580	△820	△660	△23.33
増減額 (B-A)	△340	△30	△70	90	
増減率 (%)	△5.7	—	—	—	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 30 年 3 月期第 2 四半期)	6,201	167	59	36	1.27

(2) 差異の理由

第2四半期会計期間（平成30年4月1日～平成30年9月30日）におきましては、新規IPゲーム開発に際して第2四半期での計上を見込んでいた売上が開発スケジュールの変更から未計上となったこと、および6月にリリースされた新作IPゲームアプリがリリース直後の水準を維持できず想定を下回る推移となったことから、売上高が前回発表予想を下回る見通しとなりました。費用については既存IPゲームアプリの運用効率化および全社的なコスト最適化の結果、発生が抑制され前回予想を下回る見通しとなりましたが、売上の下振れを補うにはならず、売上高、営業利益、および経常利益が前回発表予想を下回る見通しとなりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、「1. 特別利益の計上及びその内容」で記載の特別利益を計上したことから、前回発表予算を上回る見込みです。

今後につきましては、引き続きの既存タイトルの運用効率化ならびに売上拡大に取り組み、収益改善を目指すとともに、新ブラウザゲーム事業の一層の拡大に注力して参ります。

以上